

「外国人市民との意見交換会」結果概要

1 目的

次期総合計画の策定に当たり、グローバル化が進展する社会において、本市も、外国人市民が増加傾向にあり、ますます多文化共生のまちづくりが必要となっている。こうしたことから、国籍を問わず誰もが住みやすさがみはらとなるための方向性について共有することを目的に意見交換会を開催した。

2 開催概要

日時：平成30年8月10日（金）午後7時00分から8時30分

会場：大野北公民館

テーマ：誰もが住みやすさがみはらとなるために

参加者：市内在住の外国人市民 6名

（中国、韓国、台湾、フィリピン、ペルー、カンボジア）

3 内容

・はじめに司会である企画部長から開催主旨を説明。下仲副市長挨拶の後、参加者が

自己紹介を行った。その後、市と参加者として意見交換が行われた。参加者から

教育、雇用、観光、防災など多くの分野について質問や提案が行われ、活発な

意見交換がされた。

・下仲副市長から、「本日はいただいた意見は、外国人市民を含め市民が住みやすい相模原となるようにこれからの取組に活かしていきたい」と挨拶をし、閉会した。

4 意見交換（概要）（市の発言 参加者の発言）

（医療）

国際交流ラウンジの通訳の活動をしている際に知り合った方が、大きな病院に行った際に紹介状がないという理由で断られてしまった。外国人でも、紹介状がなくとも診察ができるようにできないか。

大きな病院は、外国人だけでなく、日本人も紹介状がないと普通は見てもらうことができないので、まずは、紹介状がなくとも見てもらえる小さな病院に行くことになっている。インターネットで、病院が開いている曜日や時間、外国語が通じる病院などの情報が載っていますので、病院を探す場合はこちら見ていただきたい。また、国際交流ラウンジの通訳ボランティアが病院まで付き添いをしてくれますのでこういった取組について、外国人市民にきちんと情報提供をしていきたい。

（雇用）

現在、介護人材が不足していると聞いていますが、外国人の方でもそういった仕事に就きたいと考えている人はいると思う。市で外国人の方の就職活動のサポートができないのか。また、必要な資格に関する補助制度や就職活動に役立つセミナーや面接対策など、外国人の方が就職するためのサポートを実施出来ないのか。

市では、就職活動をしている人から相談を受けたり、面接の練習など色々なサポートをしている。また、介護職への就職希望の方のための相談会を開催している。こうした取組については、外国人市民にも利用いただける。また、こうした情報をどのように外国人市民の皆様へお知らせするかなどについて、国際交流ラウンジと検討していきたい。

日本では、就職に役立つ多くのセミナーなどが開催されており、外国人もそういったセミナーに参加されたいという方は多くいると思うので、国際交流ラウンジ等を通して情報提供をしていただきたい。

（国際交流）

国際交流ラウンジは、素晴らしい施設ですが、市内には、淵野辺に1つだけです。外国人市民が相模原市でも増えており、ますます、国際交流ラウンジの必要性は高まっていると思うが、国際交流ラウンジを各区それぞれ1つ整備していただけないか。現在、国際交流ラウンジで活動してくれるボランティアが不足していることが課題となっており、まずは、ボランティアを増やす取組が必要と考えている。各区に国際交流ラウンジを設置することについては、今後の国際交流ラウンジのあり方について検討するなかで考えていきたい。

外国人市民が増え、文化の違いで困っているのは、実は日本人であり、そのために、外国人市民のために多言語化や情報提供を行っていく必要がある。誰もがすみやすい市になるために、例えば「外国人代表者会議」といった会議を作るなど、市政に外国人市民の声が直接伝わるようなシステムが必要だと思う。

現在、次期総合計画と同じタイミングで次期の国際プランの策定を進めており、「外国人代表者会議」については、そのプランの策定の中で検討させていただきたい。ニュージーランドでは、女性首相が産休に入るなどして、そういった目に見えた取り組みが人の意識を変えることに繋がると思うので、市役所が先導して目に見える取り組みを行っていただきたいと思います。

(職員研修)

市役所の窓口に行きに行った際に、対応して下さった職員の方の話す日本語が難しく、わからないまま帰ったことがあった。外国人にとって、「尊敬語」や「謙譲語」や日本語の曖昧な表現などは難しい。外国人の方を接客する際に、わかりやすく簡単な日本語で対応していただけるように、職員の研修など実施出来ないのか。市では、職員を対象に、外国人のお話を聞く時に大切なことや、「やさしい日本語」の話しかたや書き方などを学ぶ研修を行っている。今後、外国人市民が増えると、市役所に来る外国人も増えると思いますので、職員に向けた、研修をさらに進めたい。

(教育)

市では、外国籍の児童・生徒など指導支援が必要な子に対して、支援を行っていることは知っていますが、この支援は、1年半で終わってしまうため、児童・生徒によっては、勉強が遅れてしまう子もいるのが現状です。児童・生徒一人一人の習得状況に応じた支援を行うべきと考えるが見解を伺いたい。また、子育てを行っている外国人市民の方には、どのような支援をされているのか。

相模原市では、外国にルーツのある子どもが増えており、ひとり一人に合った支援をすることが大切だと考えている。子どもにとってより良い支援の方法を考えていきたい。また、子育てをしている外国人市民に向けた支援としては、多言語により「母子健康手帳」や「子育てガイド」を作成するなど、必要な情報をお知らせしている。塾に行けない家庭でも、学校で実力と学力を身につける事ができる仕組みについて伺う。

外国にルーツがある子どもには、日本語指導や子どもの母国の言葉で勉強を教えるなどの支援をしている。また、外国にルーツのある子どもだけに行うものではないが、今年から複数の小学校で、授業をサポートする先生を配置し、3、4年生の子どもには、放課後、勉強を教える取組を行っている。また、去年から複数の中学校で、退職した先生や先生をめざす大学生などが生徒に放課後、勉強を教える取組を行っている。

現在は、児童・生徒に対する色々な制度が整備され、多くの方の協力によって支援が

されているが、子ども達への支援の方法を間違えてしまうと、その子どもの人生に影響がでてしまう。なんでもしてあげてしまうのではなく、その子どもが将来自立できるようにするために、どのような支援をするべきかビジョンを持って育てていく必要があると思う。

(自治会)

外国人が自治会に加入するのはハードルが高い。私の国では、自治会といった組織がないため、自治会とはどういったものなのかわからない。外国人に対して、自治会とは、どういったことを行っている組織なのか丁寧に説明をしてほしい。

自治会の加入率が下がっている中で、市や自治会としても外国人市民の方に加入していただきたいと考えている。昨年、自治会からの依頼により、国際交流ラウンジの協力を得て、外国語による自治会活動を紹介するパンフレットを作成した。外国人市民の方に自治会に加入していただけるような取り組みをしていきたい。

(防災)

災害時の情報提供について、ひばり放送や防災メールは、日本語だけとなっている。来日されたばかりの方にとっては、「避難勧告」、「避難所」などは理解できないので逃げ遅れてしまうことが懸念される。少なくとも、防災メールについては、多言語化するべきだと思う。

災害時の外国人市民や旅行者に対しての情報提供については、重要な課題だと認識している。ひばり放送や防災メールを多言語化することがよいのか、また、その他の方法により情報提供するのがよいのか検討してみたい。

きちんとした情報が伝われば、外国人市民同士で情報提供をすることもできるし、外国人市民も助けられるだけでなく、助ける側にまわることも出来ると思うので検討をお願いしたい。

(観光)

日本全体で外国人旅行者が増えていて、圏央道の開通により、市内のホテルに宿泊している外国人は多くいるので、そういった旅行者が、ただ宿泊をするためだけに立ち寄るのではなく、相模原市内で観光し、お金をおとしていただくような取り組みが必要だと思う。相模原市は、自然が豊かであり、津久井湖やキャンプ場などは外国人にとって魅力があると思う。

相模原公園は日本庭園やフランス式庭園があり、また年末にはイルミネーションを行っているなど魅力があると思う。

JAXAは有名であり、遠方から来ている方がいる。また、イベント時には、淵野辺の駅からバスに乗ってJAXAに行っている人をよくみる。また、プレジャーフォレストも子どもたちが遊ぶ場所がいっぱいあり魅力的であると思う。

時間はかかるかもしれませんが、市の持つ豊かな自然やリニア中央新幹線の車両基地などの資源を活かしながら、外国人観光客を含め観光客が相模原市を訪れたいと思えるように、観光に関してもしっかりと取り組んでみたい。

